

《アクションプラン項目》

(テーマ)

動物の導入と繁殖

[当園での取り組み]

No.1、55、56、61

天王寺動物園基本計画アクションプランシート

No	評価	担当	
1	△	管理担当	
		飼育担当	○

■計画内容

計画的に人気動物や希少動物の導入と繁殖に取り組みます

■達成目標

コレクション計画に基づいた動物導入計画を作成し、対象種に応じて継続的な導入や繁殖を進める

■アクションプラン評価指標

希少動物の導入、繁殖に向けた取組内容の進捗

■評価理由

希少動物の導入に向けた取組みや繁殖に向けた取り組みを進めたが、空き獣舎が目立つ状況である。また、一部の種については動物導入の方針を盛り込んだ飼育管理の方針を文書としてとりまとめた。

■評価理由の詳細（アクションプラン策定以降の取組実績）

【現状分析】

- 動物園のメインのコンテンツは動物そのもの。集中と選択を図りつつ、人気動物の導入確保と繁殖に取り組む必要がある。
- H27年にコレクション計画を策定し、中長期的には動物種の絞り込みを進めていくこととしている。
- カバ等の個体の導入は一定進み、繁殖可能なペアは成立しつつあるが、ここ数年は大型動物の繁殖実績が乏しい。
- ゾウ、シマウマ等が不在となるなど空き獣舎も目立つ状況にあり、適時なタイミングでの導入が課題。

【評価理由の詳細】

- 種毎の飼育管理・導入の計画については、47種（哺乳類30種、鳥類14種、両生爬虫類3種）については方針文書をとりまとめた。
- 近年導入・繁殖の実績は別紙のとおり。

＜導入＞

- カバについては、H28に若いオスのカバをメキシコから導入。
- 新施設の計画があり、コレクション計画でも優先導入種としているシシオザルについては、海外からの導入を目指していたが、検疫等の理由により調整が難航したため国内からの導入に切替え、H30年から31年にかけてメス1オス2を導入。
- アジアゾウについては、H30年にラニー博子死亡して以降、ゾウ不在の状況が続いている。導入への取り組みを進めているがまだ実現していない。
- このほか、エランドのメス（H29）、フンボルトペンギン（H29）、ニホンコウノトリ（R1）、ジャガー（R1）などを導入。

＜繁殖＞

- 繁殖が順調な種は、カリフォルニアアシカ（R1に2頭繁殖）、フクロテナガザル（H28,R1に繁殖）などだが、大型の人気動物の繁殖例が乏しい。
- ここ数年の導入により繁殖可能なペアを確保している人気種は、ホッキョクグマ、クロサイ、カバ、キリン、エランド、ブチハイエナ、ジャガーなど。今後はこれらの繁殖を目指す。

■今後の取組方針

【総括】

種ごとの飼育方針文書について、未策定の種について策定を進め、R2年度上半期には主だった種を全てカバーする。計画的に動物導入に取り組む。

【計画内容】 ①現在の計画を継承し、取り組みを継続する

【達成目標】 ①現在の目標を継承し、取り組みを継続する

主な動物異動(H28年度以降)

【No.1 補足資料】

種名	性別	頭数	個体名	日付	摘要	備考
ジャガー	♂	2	小助、佐助	H28.4.21	繁殖	ルース2産め
フランソワルトン	♂	1	クルル	H28.7.20	返却搬入	西山動物園より
ヤギ(雑種)	♀	2	クッキー、クリーム	H28.11.29	購入	
フクロテナガザル		1	ヨッチャン	H28.12.27	繁殖	ナナ4産め
エミュー		1		H29.1.16	繁殖	
フサオネズミカンガルー	♂	1	フーザブロウ	H29.3.23	譲受	埼玉県こども動物自然公園より
ブチハイエナ	♀	1	ハナ	H29.3.23	譲受	上海動物園より
カバ	♂	1	ゲンちゃん	H29.4.1	譲受	メキシコ・アフリカンサファリより
ホオジロカンムリヅル	♀	3		H29.7.11-12	繁殖	
ワライカワセミ		1	アキーゴ	H29.4.12	繁殖	人工ふ化
レッサーパンダ	♀	1	咲弥	H29.11.20	借受	西山動物園より
ダチョウ	♀	2		H29.12.15	購入	
キリン	♂	1		H30.5.24	繁殖	自立できず翌日死亡
ニホンアナグマ	♂	4		H30.6.13	受贈	安佐動物公園より
ハクビシン	♂	2		H30.6.13	受贈	安佐動物公園より
ホンドタヌキ	♂2 ♀1	1		H30.6.13	受贈	安佐動物公園より
ホオジロカンムリヅル	♀	2		H30.9.16-17	繁殖	
ホッキョクグマ	♂	1	ゴーゴ	H30.12.3	返却搬入	アドベンチャーワールドより
フクロテナガザル		1		R1.5.11	繁殖	ナナ5産め
カリフォルニアアシカ	♀	1	キュッキュ	R1.6.3	繁殖	チョコの仔
カリフォルニアアシカ	♂	1	ガルーガ	R1.6.7	繁殖	ユイの仔
ジャガー	♂	1	ロン	R1.7.23	譲受	上海動物園より

ジャガー	♀	1	ココ	H28.4.18	貸出	わんぱく高知へ
ダチョウ	♀	1	エル	H28.4.21	死亡	
シシオザル	♂	1	ハミイ	H28.5.15	死亡	
ライオン	♂	1	レオ	H28.5.20	死亡	高齢個体(23歳)
ホッキョクグマ	♀	2	バフィン、モモ	H28.6.13	返却搬入	浜松市動物園へ
カリフォルニアアシカ	♀	1	チコ	H28.6.14	貸出	千葉市動物公園へ
コアラ	♂	1	そら	H28.6.30	貸出	香港オーシャンパークへ
タイマイ	♀	1		H28.7.9	死亡	最終個体
フランソワルトン	♂	1	ニンニン	H28.9.28	返却搬入	よこはま動物園へ
カリフォルニアアシカ	♀	1	エルサ	H28.10.24	貸出	アドベンチャーワールドへ
カリフォルニアアシカ	♀	1	パフェ	H28.11.5	貸出	油壺マリンパークへ
フサオネズミカンガルー	♀	1		H28.12.24	死亡	高齢個体
ブラッザゲノン	♂	1		H28.12.29	死亡	
オオカンガルー	♀	1	ユイ	H29.2.7	死亡	最終個体
ニホンコウノトリ	♂	1		H29.5.2	死亡	
ジャガー	♂	1	小助	H29.6.22	貸出	日本平動物園へ
ジャガー	♂	1	佐助	H29.7.21	貸出	とべ動物園へ
エランド	♀	1	ミナミ	H29.10.30	借受	よこはま動物園より
スナドリネコ	♀	1	幸(ユキ)	H29.11.18	死亡	最終個体 高齢個体(13歳)
タンチョウ	♀	1	キク	H29.11.29	死亡	高齢個体(43歳)
グラントシマウマ	♀	1	ミカ	H29.12.2	死亡	
ブラッザゲノン	♀	1		H29.12.15	死亡	
ウンピョウ	♂	1	ショウ	H30.1.12	死亡	高齢個体(14歳)
カリフォルニアアシカ	♀	1	エリー	H30.1.20	死亡	高齢個体(29歳)
アジアゾウ	♀	1	ラニー博子	H30.1.24	死亡	高齢個体(48歳)、死亡以降ゾウ不在
チュウゴクオオカミ	♀	1	ユジン	H30.3.15	死亡	高齢個体(14歳)
ドール	♀	1	シュタイン	H30.3.20	死亡	最終個体
ジャガー	♂	1	ジャガオ	H30.4.18	死亡	高齢個体(22歳)
シシオザル	♂	1	ノア	H30.7.5	死亡	高齢個体(31歳)
フランソワルトン	♀	1	なっちゃん	H30.9.22	死亡	高齢個体(30歳)
オウサマペンギン	♂1 ♀1	1		H30.11.19	貸出	下田海中水族館へ
ベンガルヤマネコ	♂	1	セイ	H30.11.28	死亡	最終個体、高齢個体(16歳)
モモイロペリカン	♂	1	セイバー	H31.1.7	死亡	最終個体、高齢個体(30歳)
ピューマ	♂	1	ロック	H31.1.21	貸出	とくしま動物園へ
チュウゴクオオカミ	♀	1	明明	H31.1.21	死亡	
チュウゴクオオカミ	♂	1	元元	H31.2.2	死亡	
クロサイ	♂	1	トミー	H31.2.7	死亡	高齢個体(36歳)
サバンナモンキー	♀	1		H31.3.26	死亡	
グラントシマウマ	♀	1	ナデシコ	R1.5.8	死亡	
ブラッザゲノン	♂1 ♀1	1		R1.7.30	譲渡	上海動物園へ
ニホンイヌワシ	♀	1	アイゼン	R1.8.12	死亡	
グラントシマウマ	♂	1	ヒデヨシ	R1.9.11	死亡	エランドとの闘争事故、以降シマウマ不在
アムールトラ	♂	1	虎二郎	R1.9.16	死亡	
コアラ	♂	1	アーク	R1.10.10	貸出	最終個体、英国ロングリートサファリへ
カリフォルニアアシカ	♀	1	ウナ子	R1.12.28	死亡	高齢個体(35歳)
ピューマ	♀	1	ピコ	R1.12.28	死亡	高齢個体(17歳)

天王寺動物園基本計画アクションプランシート

No	評価	担当	
55	○	管理担当	
		飼育担当	○

■計画内容

飼育動物の個体情報や血統登録情報、飼育記録を収集し、適切な個体の管理、繁殖計画の策定に役立てます

■達成目標

国内外のシステムを駆使し、適切な個体管理・繁殖計画を策定する

■アクションプラン評価指標

国内外のシステム（特にZIMS）の活用の進捗

■評価理由

ZIMS等のシステムの活用した飼育管理が進んでいること

■評価理由の詳細（アクションプラン策定以降の取組実績）

【現状分析】

- ・動物園において個体管理や繁殖計画の立案を進めるに当たっては、近年は広域的な情報システムの活用が進んでおり、国内の動物園ではJAZAが運営するCPOS（コレクション計画オンラインシステム）、JMS（個体群管理システム）が活用されている。
- ・また、欧米を中心として世界の多くの動物園ではZIMS(Zoological Information Management System ; Species360（旧名：ISIS）が開発したデータベースシステム）が活用されている。ZIMSには個体台帳、血統登録台帳、医療カルテの機能があり、ZIMSに加入する世界中の動物園の飼育情報を収集することができる。

【評価理由の詳細】

- ・天王寺動物園では20年以上前からISISに加盟しており、2012年のZIMS運用開始時からシステムを利用している。
- ・ZIMSの活用例としては、メキシコからのカバの導入（H29）に際してはZIMSにより候補個体の情報を取得した上で交渉を進めた。また、ピューマの高齢個体の治療に当たっては、海外のピューマ飼育園の情報を取得し治療の参考とした。
- ・また、ZIMSに登録した当園の個体情報をきっかけとして、英国の動物園とのコアラの繁殖協力が成立した。

■今後の取組方針

【総括】

動物の飼育管理にZIMSをさらに活用していく。

【計画内容】 ①現在の計画を継承し、取り組みを継続する

【達成目標】 ①現在の目標を継承し、取り組みを継続する

天王寺動物園基本計画アクションプランシート

No	評価	担当	
56	×	管理担当	
		飼育担当	○

■計画内容

コレクション計画について適時更新を行います

■達成目標

定期的なコレクション計画の更新

■アクションプラン評価指標

動物コレクション計画の更新の進捗

■評価理由

コレクション計画に基づく動物の導入等は進展しているが、コレクション計画自体の改訂は進んでいない。

■評価理由の詳細（アクションプラン策定以降の取組実績）

【現状分析】

- ・H27に策定したコレクション計画では、動物の種毎に推進種、撤退種などと方針を整理した。
- ・同計画においては、全ての種において推進、撤退、維持等の判断をしておらず、今後の状況変化に応じて判断を将来に委ねた種も多く存在する。このため、適宜に改訂を行い、判断を固めていくことが必要とされる。

【評価理由の詳細】

獣舎整備計画が具体化されるなど一定の状況変化はあったものの、獣舎整備計画に伴う動物種の変更が生じておらず計画自体の改訂には至らなかった。

■今後の取組方針

【総括】

R2年度内をめどに、状況変化に応じたコレクション計画改訂を行う。

【計画内容】 ①現在の計画を継承し、取り組みを継続する

【達成目標】 ①現在の目標を継承し、取り組みを継続する

天王寺動物園基本計画アクションプランシート

No	評価	担当	
61	△	管理担当	
		飼育担当	○

■計画内容

適正飼育個体数を設定します

■達成目標

コレクション計画に沿った適正飼育個体数を設定する

■アクションプラン評価指標

適正飼育個体数を設定した実績

■評価理由

47種については飼育可能最大数等を整理した種毎の飼育方針文書を取りまとめたが、まだ策定できていない主要種もある。

■評価理由の詳細（アクションプラン策定以降の取組実績）

【現状分析】

・動物園においては、繁殖や導入により飼育個体数や種数を維持していくことが重要であるが、一方で、過剰な繁殖は収容場所や移転先に困ることになり、また、群れ飼育が好ましい種もいるなど飼育目的や習性に応じて適正な個体数を設定して、計画的に維持管理していくことが重要であるが、計画的な管理ができてこなかった。

【評価理由の詳細】

・47種については飼育管理の方針文書を取りまとめた。

■今後の取組方針

【総括】

適正個体数の設定というよりも、もっと広い視点で種毎の飼育管理方針を取りまとめていくべき。まだ策定できていない種もあることから、順次策定を進めていく。

【計画内容】 ②下記のとおり、内容を一部修正のうえ、取り組みを継続する

種毎の飼育管理の方針を取りまとめて計画的に管理を行う。

【達成目標】 ②下記のとおり、内容を一部修正のうえ、取り組みを継続する

主な種についてR2年度上半期に種毎の飼育管理方針を取りまとめる。
また、適宜に更新を行う。

《アクションプラン項目》

(テーマ)

動物の導入と繁殖

[園館協力]

No.58、60

天王寺動物園基本計画アクションプランシート

No	評価	担当	
58	○	管理担当	
		飼育担当	○

■計画内容

国内外の個体群管理計画に積極的に参画します

■達成目標

積極的に参画し、希少種の生息域外保全を推進

■アクションプラン評価指標

ヨウスコウワニ、シシオザル等の希少種の生息域外保全に資する活動実績

■評価理由

JAZA等による個体群管理計画に基づき動物の異動を実施。また、ヨウスコウワニ、シシオザルの国内管理計画者として貢献。

■評価理由の詳細（アクションプラン策定以降の取組実績）

【現状分析】

- ・希少な種については、国内外において個体群管理計画が策定されており、同計画の実施に貢献していかなば動物の入手自体も困難となる。
- ・単に計画に参画するのみならず、一部の種については主体的な貢献も求められる。

【評価理由の詳細】

- ・当園で飼育展示している動物のうち、WAZAやJAZAによる個体群管理計画のあるものは、同計画の下に飼育・繁殖に取り組んでいる。
- ・例えば、当園で飼育しているホッキョクグマについて、浜松市動物園からのメスのBL導入、アドベンチャーワールドへのオスのBL搬出などは、ホッキョクグマの種別計画管理者との調整に基づき実施。多くの種において同様の調整を行っている。
- ・ヨウスコウワニ、シシオザルについて、当園獣医が種別計画管理者として国内の調整を行っている。種別計画管理者としては、国内各園から情報を収集し、血統登録簿を作成し、これを参照しつつ、種別計画管理者が国内全体の動物園間での繁殖調整を行っている。
- ・シシオザルを例にとれば、国内の個体群に新しい血統を入れるために、H29年度には海外からの導入について調整を行ったが、検疫面でのハードルが高く、実現には至らなかった。海外からの導入は中長期的な課題として残るが当面は国内の個体群に係る調整を行い、当園ではH30年に円山動物園からメスを導入、R1年に長野市城山動物園からオスを当園に移動させるなど、国内全体の個体移動を計画・実施している。

■今後の取組方針

【総括】

引き続き、ヨウスコウワニ、シシオザルの種別調整者を引き受けるとともに、国内外の個体群管理計画に協力していく。

【計画内容】 ①現在の計画を継承し、取り組みを継続する

【達成目標】 ①現在の目標を継承し、取り組みを継続する

天王寺動物園基本計画アクションプランシート

No	評価	担当	
60	○	管理担当	
		飼育担当	○

■計画内容

国内外の動物園コミュニティに対して、単に参画するのみならず、リーダーシップを発揮します

■達成目標

現状以上にリーダーシップを発揮し、プレゼンスを築く

■アクションプラン評価指標

動物園コミュニティにおいて役員や委員に就任していること。動物園コミュニティにおける会議をホストしていること。

■評価理由

R1年に全国動物園技術者研究会を当園で開催するなど、JAZA等の事業を積極的に引き受けている。

■評価理由の詳細（アクションプラン策定以降の取組実績）

【現状分析】

・近畿エリアで見れば当園は地域の中核的な動物園であり、動物園コミュニティの中での貢献をして業界内プレゼンスを確保していくことが必要。

【評価理由の詳細】

（役員等への就任）

・日本動物園水族館協会（JAZA）については、当園獣医が生物多様性委員会国際保全事業部長や安全対策委員会感染症対策委員のポストに就いている。

・国際保全事業部長としては、JAZAによる海外との協力事業において主要な役割を果たしている。

・感染症対策委員としては、当園で策定した高病原性鳥インフルエンザ対策マニュアルを、汎用性を持たせたものに修正してJAZAに提出し、それがJAZAの標準マニュアルとして各園館に配布されるなどの貢献を行った。

（会議等のホスト）

・R1年12月には、JAZAが主催する全国動物園技術者研究会をホストした。（同会議には秋篠宮皇嗣殿下も臨席）

・H29年にはJAZAの動物福祉ワークショップをホストした。これはJAZAが海外のNGOと協力して開催するワークショップの初年度で、関東で1園、関西で1園（当園）でホストし、西日本の多くのJAZA加盟動物園が参加した。

・このほか、近年のJAZA会議のホスト実績は、

H25全国参加型研修会、H26近畿ブロック動物園飼育係研修会（中部ブロックと合同）、H28近畿ブロック動物園技術者研究会、H30近畿ブロック園館長会議

・JAZA以外では、動物園水族館教育研究会（全国の園館での教育担当者や動物園教育に関心を持つ教員等が参加する研究会）をホストした（H29）。

■今後の取組方針

【総括】

引き続き、業界全体の発展に貢献することにより、動物園コミュニティ内での天王寺動物園のプレゼンス向上を図る。

【計画内容】 ①現在の計画を継承し、取り組みを継続する

【達成目標】 ②下記のとおり、内容を一部修正のうえ、取り組みを継続する

動物園コミュニティ内でリーダーシップを発揮し、プレゼンスを築く

《アクションプラン項目》

(テーマ)

動物の導入と繁殖

[導入のインフラ]

No.57

天王寺動物園基本計画アクションプランシート

No	評価	担当	
57	×	管理担当	
		飼育担当	○

■計画内容

高度な検疫体制を確立します

■達成目標

検疫施設・体制の整備

■アクションプラン評価指標

高度検疫施設の導入の進捗

■評価理由

高度検疫施設の諸条件を検討したが高度検疫整備は維持コストが非常に大きいことから、高度検疫施設の設置を目指すのではなく、当面は現行の施設により実施する方針とした。

■評価理由の詳細（アクションプラン策定以降の取組実績）

【現状分析】

動物の移動に際しては、動物の種類によっては伝染性のある病気の移動を防ぐために「検疫」として一定期間隔離をして健康状態を確認することが必要となる。

当園では検疫のための独立した施設は有しておらず、大型草食獣や猛獣については飼育獣舎内で、それ以外の動物については動物病院内の一室（検疫室）において検疫を行っている。サル類を海外に輸出入する際などには、より厳しい検疫条件があり、隔離を確実にするために、検疫室だけでなく、検疫服に着替えるための前室を設けることが求められる。現行では、検疫室に隣接した入院室を前室として使用することにより対応しているが、この場合、検疫中は入院室が使用できない状態となってしまうことが課題である。

また、大型類人猿などではさらに検疫条件が厳しく、当園の現行施設では対応が困難となる。

このため、高度な検疫施設の設置の可能性を検討してきたところ。

【評価理由の詳細】

高度検疫施設の必要条件について聞き取り調査を行ったところ、高度検疫施設を整備すれば維持費だけで年間500～2,000万円の経費が必要であることが判明。大型類人猿を検疫する機会はめったにないので、もし必要が生じた場合には他園の施設を借用するなどして対応することとし、現行の検疫体制の改善を図ることに方針転換を行った。現在、病院の一部改修で検疫体制が強化できるかどうか調査中。

■今後の取組方針

【総括】

検疫体制の強化について、検討の結果を踏まえて簡易な改修で対応可能であれば次年度以降に改修工事に着手する。

また、今後の獣舎整備計画に合わせて、入院設備や一次隔離施設としても使用可能な大型動物の検疫施設の設置可能性を検討していく。

【計画内容】 ②下記のとおり、内容を一部修正のうえ、取り組みを継続する

検疫体制の強化を図る

【達成目標】 ②下記のとおり、内容を一部修正のうえ、取り組みを継続する

現行の施設については、簡易な改修で強化が可能か検討を進め、必要に応じ改修を行う。
また、新獣舎整備に併せて検疫施設の強化についても検討を進める。

《アクションプラン項目》

(テーマ)

展示・教育

[動物展示・体験向上]

No.4、5、6

天王寺動物園基本計画アクションプランシート

No	評価	担当	
4	○	管理担当	
		飼育担当	○

■計画内容

来園者に動物を近くに感じていただけるような展示を行います

■達成目標

実施できている動物種を2倍に増やし、改修が必要な施設は改修を実施する

■アクションプラン評価指標

おやつタイムの実施回数がH28に比べて増加していること。（実施回数の目安は年間3,500回以上）

■評価理由

来園者に動物を近くに感じていただけるおやつタイムの実施を種類も回数も増加させることができた。

■評価理由の詳細（アクションプラン策定以降の取組実績）

【現状分析】

・来園者ニーズとしては近くで動物が見たいという意見が多い。動物園としては、動物の健康とお客様の安全を守りつつ、いかに動物を近くに感じていただくような展示ができるかが課題。
 ・対応としては、ソフト面では給餌の公開により近づいた動物を来園者にご覧いただく、ハード的にはお客様に近くで見えていただけるような展示構造とすることなどが挙げられるが、まずはソフト面での対策を強化していくことが重要。

【評価理由の詳細】

（おやつタイム）

・当園ではおやつタイムを毎日実施している。実施時間をゲートに公表して実施するものと、当日の飼育員の作業状況に合わせてゲリラ的に行うものがある。
 ・おやつタイムの実績としては、H28年度は15種3,122回のところ、H30年度は通常時約20種、ゴールデンウィーク等の繁忙期においては30種で総計3,940回を実施した。おやつタイムに参加したお客様数も、178,340人（H28）から258,969人（H30）に増加した。
 ・R1年度についても、H30とほぼ同程度の規模でおやつタイムを実施している。

（ハード面での対応）

・既設獣舎に関しては計画期間中に特段の改修は実施していない。
 ・一方、新設獣舎に関しては、101計画では来園者と動物との距離感の演出に配慮したものとすることとしており、現在設計中のペンギンアシカ舎については、アクリルガラスの水槽を設置することなどにより、近くで観察できる場所を盛り込むよう検討を進めている。

■今後の取組方針

【総括】

・おやつタイムの実施回数には限界があることから、単に右肩上がりの増加を目指すのではなく、一定規模の実施を行いつつ、できるだけ多くのお客様に参加いただけるような周知等を工夫する。
 ・ハード面については、設計段階から来園者と動物との距離感の演出を考慮していく。

【計画内容】 ①現在の計画を継承し、取り組みを継続する

【達成目標】 ②下記のとおり、内容を一部修正のうえ、取り組みを継続する

おやつタイムを一定規模以上で維持しつつ、適切な周知等により、より多くのお客様に参加いただけるよう工夫する

天王寺動物園基本計画アクションプランシート

No	評価	担当	
5	△	管理担当	
		飼育担当	○

■計画内容

ふれあいやお客様による餌やりなどの体験・体感ができる活動を強化します

■達成目標

受入人数や動物種を拡大し、動物への理解を深めるきっかけとなるようなプログラム開発をめざす

■アクションプラン評価指標

ふれあいプログラムの数、受入人数

■評価理由

ふれあいプログラムの実施回数はH28から増加しているが、R1には減少。

■評価理由の詳細（アクションプラン策定以降の取組実績）

【現状分析】

- ・動物とのふれあいや来園者による餌やりは、以前は当園ではあまり積極的に提供されてこなかった活動であるが、動物園来園者からのニーズが非常に高いことを踏まえ、H27年にテンジクネズミのふれあいコーナーを設置して新たにサービス提供を開始した。ふれあいコーナーは、他の展示に比べて人手がかかる事業であり、来園者の安全対策と動物の健康管理をしつつ、参加できる来園者数を増やしていくことが課題。当園はふれあい事業については後発であることから事業を進めつつノウハウの蓄積に努めてきた。
- ・エサの販売については、ふれあい広場のヤギとヒツジの餌のみを販売している。その他の動物ではイベント的に来園者からの餌やりを実施することがある程度。

【評価理由の詳細】

（ふれあいエリア）

- ・テンジクネズミのふれあいの活動実績は、H28に、なでなでタイム：105回、63,931人、ふれあい体験：912回、16,289人であったが、H30には、なでなでタイム：136回、111,859人、ふれあい体験：798回、13,970人となっている。
- ・一方で、R1は、飼育担当の病欠などもあり、12月末時点でなでなでタイム：18回、12,724人、ふれあい体験：678回、14,859人であり、H30に比べて減少する見込み。
- ・人数制限を設けて実施（1回あたり20人程度）しているため、体験できる来園者数が限られる。テンジクネズミの健康を確保しつつ、いかに体感できる人数を拡大するかが課題。

（家畜への餌やり）

- ・ヒツジ、ヤギ用の餌の販売は継続的に実施。
- ・給餌量を制限しており週末など繁忙期には販売する餌がすぐに売り切れてしまう、ナイトズー実施時に餌の販売を行っていないなどの課題がある。

（その他の動物へのエサやり）

- ・定例的には行っていないが、年に数回はイベントとしてアシカ等へのエサやりを体験していただくことがある。

（新エリアの検討）

- ・てんしばゲート脇に新しいふれあいエリアを設置するべく設計を進めており、R3年度の完成を目指している。新エリアでは、家畜、テンジクネズミ等を展示予定。家畜エリアにはウォークスルーエリアを設置する方向で検討。

■今後の取組方針

【総括】

動物の健康とお客様の安全を守りつつ、参加者数の拡大に努める。

併せて、新エリアの設置等を見据えて、餌やりが可能な個体数の拡大、動物種の拡大、実施場所や手法の工夫なども検討していく。

【計画内容】 ①現在の計画を継承し、取り組みを継続する

【達成目標】 ②下記のとおり、内容を一部修正のうえ、取り組みを継続する

新エリアの設置を見据えて、受入人数や動物種の拡大を図る

		H28	H30	R1（12月末時点）
なでなでタイム	回数（単位：回）	105	136	18
	人数（単位：人）	63,931	111,859	12,724
	1回あたり人数	609	822	707
ふれあい体験 （人数制限あり 【予約制】）	回数（単位：回）	912	798	678
	人数（単位：人）	16,289	13,970	14,859
	1回あたり人数	18	18	22
計	回数（単位：回）	1,017	934	696
	人数（単位：人）	80,220	125,829	27,583
	1回あたり人数	79	135	40

天王寺動物園基本計画アクションプランシート

No	評価	担当	
6	○	管理担当	
		飼育担当	○

■計画内容

積極的に動物の魅力の発信を行います

■達成目標

より多くの来園者に動物の魅力が伝わるような解説を実施し、タイムリーで来園者の目に留まるパネル展示を行う。

■アクションプラン評価指標

動物に関する掲示物の設置実績

■評価理由

大型の動物解説板をH29に3か所、H30に9か所設置完了。H31（R1）には学名札を10か所に設置（予定）

■評価理由の詳細（アクションプラン策定以降の取組実績）

【現状分析】

・動物園として動物の魅力をますます発信していく必要がある。展示場においてスタッフが解説することができれば魅力を深く伝えることができる（おやつタイムについては項目5参照、団体等に対する飼育員のショートガイドについては項目6・7参照）が、展示場に常駐させるのは難しい。そこで、解説パネルを適切に掲示することにより、より多くの来園者に魅力を伝えていくことができる。
・パネルについては、H27年度に種名パネルを大幅に拡充した一方、常設の大型解説パネルが古いまま残されていた。

【評価理由の詳細】

・大型の動物解説パネルについては、H29にNPOとの協力により3か所（レッサーパンダ、シカ、チンパンジー）に設置。また、H30には動物専門学校との協力により9か所（オオカミ、トラ、ネコ類、ペンギン×2、サルビヒ、ホッキョクグマ×2、チンパンジーリタ像）に解説板を設置した。
・種名パネルについては、H27年度にとりまとめた4言語の園内統一フォーマット（サバンナ、アイファア、夜行性、鳥の楽園を除く）により運用しており、R1.11現在で74か所に設置。R1年度中に10枚程度を改修・追加する予定。
・タイムリーな情報を伝える獣舎前パネルについては、現在、個体情報のパネルを30か所程度、情報パネルを50か所程度設置している。ただし、タイムリーなパネルについては、担当者ごとのばらつきが大きい。
・パネルに関しては全体を見渡した掲示物整備計画などは定められておらず、今後は計画的に整備・改修していくことが課題。

■今後の取組方針

【総括】

獣舎前に掲示する①大型解説パネル、②種名パネル、③タイムリーパネルのうち、①については概ね整備が進んだことから、②と③について、作成可能な動物種について引き続き設置を進めていく。
掲示物の整備計画をR2年度中に策定する。

【計画内容】 ①現在の計画を継承し、取り組みを継続する

【達成目標】 ②下記のとおり、内容を一部修正のうえ、取り組みを継続する

より多くの来園者に動物の魅力が伝わるような解説を実施し、タイムリーで来園者の目に留まるパネル展示を行う。
また、掲示物の整備計画を策定する。

パネルの例

【No.6 補足資料】

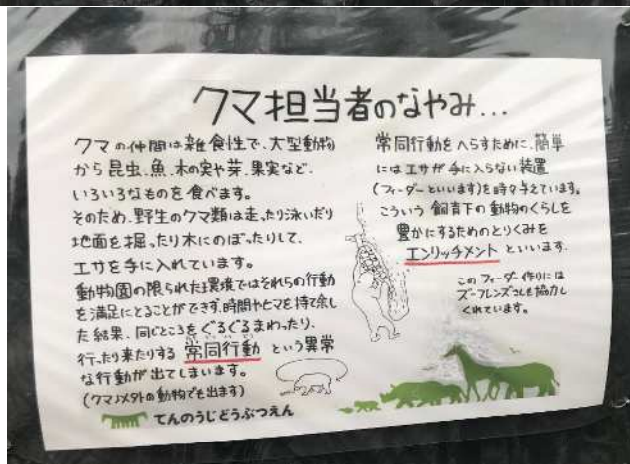


ただし、統一フォーマットになっていない種目パネルも一部残っている

統一フォーマットの種目パネル



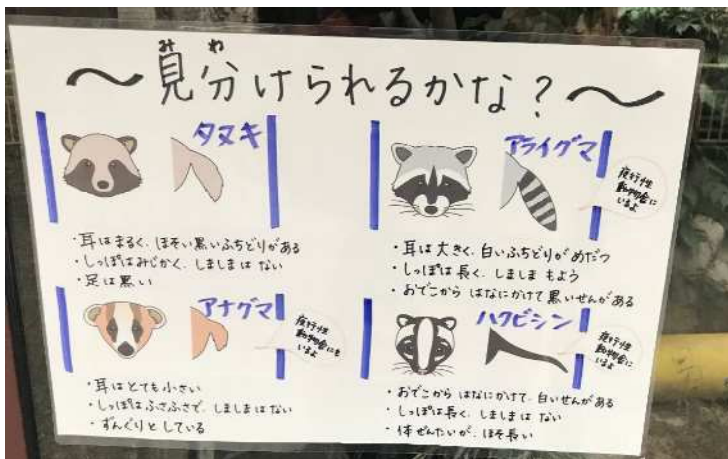
大型の解説パネルはH29-30年度に12か所を整備



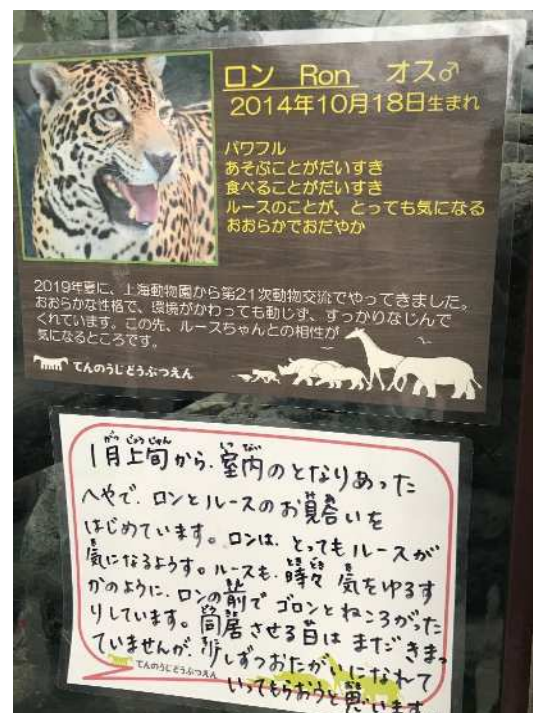
情報パネル（クマの個体紹介や解説）



情報パネル（アシカの個体紹介、訃報）



情報パネル（タヌキ等の見分け方）



情報パネル（ジャガーの個体紹介、近況紹介）

《アクションプラン項目》

(テーマ)

展示・教育

[教育プログラム]

No.67、68

天王寺動物園基本計画アクションプランシート

No	評価	担当	
67	○	管理担当	
		飼育担当	○

■計画内容

教育プログラムの開発を進めます

■達成目標

大人の知的好奇心に対応した教育プログラムの作成、教育事業ポリシーの策定

■アクションプラン評価指標

教育・体験学習プログラムの実施回数、教育等との連携の取組の実施状況、教育担当職員の配置状況、教育に係る拠点の整備状況

■評価理由

多くの課題はあるものの、教育ポリシーの策定や教育キットの作成など教育活動が一定程度進展している。

■評価理由の詳細（アクションプラン策定以降の取組実績）

【現状分析】
 ・これまでの、一定の教育活動は実施してきたものの、教育の専任担当もおらず、施設上の制約などからも提供できる活動が限定的なものにとどまってきた。また、専門的な観点からより効果的なプログラムの開発していくことが課題。

【評価理由の詳細】
 ・定期的に提供している教育プログラムとしては、ディスカバープログラムとして、依頼に応じてズースクール、ガイドウォーク、ショートガイドなどを実施している。実績は別紙のとおり。
 ・教育の専門家の確保については、R1.11より前職で動物専門学校で教員であった者を動物専門員として新たに採用することにより強化を図った。
 ・一貫性のある教育活動を実施していくため、H30.8に当園の教育ポリシー文書をとりまとめ・公表した。同文書において、当園が取り組む教育活動は生物多様性保全教育や命の教育等を重視していくこととした。
 ・学校教員との連携については、大阪府教育センターと共同で動物園の教育利用に関する教員向け研修会を平成27年度から毎年1回（参加教員20数人）開催した。そのほか、学校教員が主催し来園して実施する自主的な研修会への協力を平成28年から毎年2～3回実施した。
 ・博物館との連携により、チリメンモンスターやペリット実習等の体験学習ワークショップを平成28年から毎年開催している。
 ・また、H29年度の委託事業として教員向けの貸出キットの開発を行った。（→項目68にて詳述）
 ・大人向けの教育プログラムについては、「マークに注目！！自然にやさしい『おかいもの』」を作成し、H30から園内及び国内の生涯学習センターにおいてワークショップを実施している。
 ・教育活動の拠点については、現在学習休憩棟の建設工事中であり、R2年度に完成予定。学習休憩棟においては、今よりも大きな多目的ホールや実験・作業室を設置するとともに、標本等の展示スペースも設置する予定。
 ・なお、パネルによる教育活動については項目6にて詳述

■今後の取組方針

【総括】
 ・教育部門の体制を整備するとともに、どのような資源配分で活動を実施していくべきか教育活動全体を見直していく。

【計画内容】 ①現在の計画を継承し、取り組みを継続する

【達成目標】 ②下記のとおり、内容を一部修正のうえ、取り組みを継続する
 教育拠点施設が新たに設置されることを踏まえて、効果的な教育活動が実施できるようプログラム等の見直しを行う。

教育普及活動実績について

(no.67補足資料)

団体向け教育普及活動(ディスカバープログラム)		H27	H28	H29	H30
(1) 獣舎前での動物説明 ショートガイド	件	14	8	26	9
	受講者数	552	218	982	313
(2) レクチャールームでの 動物講話(ズースクール)	件	68	99	81	82
	受講者数	4,737	4,746	4,140	4,077
(3) 園内ガイドウォーク	件	48	53	43	41
	受講者数	971	1,600	849	651
(4) 動物園・職場紹介	件	27	13	10	14
	受講者数	159	58	72	77
(5) 出張講話	件	26	24	20	31
	受講者数	1,901	2,239	2,145	2,833
(6) 職業体験講座	件	23	19	14	14
	受講者数	97	110	78	80
その他教育普及活動		H27	H28	H29	H30
サマースクール		4	4	2	3
	受講者数	144	123	64	92
動物くんたちの一日	件	10	11	11	12
	受講者数	390	355	332	515
こんにちは動物くん他 ステージ活動	件	21	17		23
	受講者数	986	3,420		6,850
実習受入(飼育・獣医・学芸員 ・インターンシップ等)	件	42	29	32	35
	受講者数	42	29	32	35
動物相談	件	121	114	133	243
	受講者数	121	126	133	243
物作り教室(巣箱ほか)	件	4	5	1	1
	受講者数	220	166	13	500
裏側ウォッチング	件	4	3	2	6
	受講者数	260	181	199	193
ワンポイントガイド	件	2,946	3,122	3,658	3,940
	受講者数	105,344	162,191	230,482	258,969
夜の動物園ガイド	件	151	141	51	0
	受講者数	20,370	16,113	10,997	
企画展	件	4	4	5	13
	受講者数	33,380	37,378	28,456	51,559
獣医さんのお話	件	10	11	9	12
	受講者数	350	335	345	419
その他普及行事	件	91	68	71	101
	受講者数	30,817	473	9,462	14,751
	件数合計	3,614	3,745	4,169	4,580
	人数合計	200,841	229,861	288,781	342,157

天王寺動物園基本計画アクションプランシート

No	評価	担当	
68	○	管理担当	
		飼育担当	○

■計画内容

出張授業など、学校や地域での教育活動を推進します

■達成目標

出張スクールが必要な方への認知度向上・拡充

■アクションプラン評価指標

出張スクールの実施や教育普及プログラムキットの利用が一定規模で推移していること。

■評価理由

出張スクールの実施とともに、キットを開発・貸出することで、動物園の教育サービスの利用者を拡大。

■評価理由の詳細（アクションプラン策定以降の取組実績）

【現状分析】

- ・社会教育施設としては、来園者に教育サービスを提供するのみならず、アウトリーチも重要な取り組みである。これまでも可能な範囲で実施してきた。
- ・一方で、出張スクールは動物園の人員の制約により実施可能な回数が制限されることが課題。

【評価理由の詳細】

- ・学校団体等からの依頼に応じて出張スクールを実施してきた。
- 実績はH28年度：24回、H29年度：20回、H30年度：31、R1年度：33回【12月現在】である。
- ・H29年度に、教員のみで教育活動が実施できるよう教育キット（ZOOバック）を開発し、H30年度より学校等への貸出を開始した。このキットは、標本等の教材と教員向けの利用ガイドから成るキットであり、キットがあれば一定の教育活動が学校等で実施できるように制作したもの。貸出実績はH30年度で31件、R1年度は1月現在で15件である。なお、ZOOバックの学校等への周知は、周知ビラを作成し、府市教育委員会、ズースクール、教員向けワークショップ、駅の配下ラック、教員研修会等の機会に広報周知を行っている。

■今後の取組方針

【総括】

出張スクールや教育普及プログラムキットの積極的な周知活動により、教育活動を推進する。

【計画内容】 ①現在の計画を継承し、取り組みを継続する

【達成目標】 ②下記のとおり、内容を一部修正のうえ、取り組みを継続する

出張スクールや教育キットの貸出を進め、学校等での動物園利用を促進する

《アクションプラン項目》

(テーマ)

展示・教育

[展示に関する研究]

No.73

天王寺動物園基本計画アクションプランシート

No	評価	担当	
73	×	管理担当	
		飼育担当	○

■計画内容

展示とその効果に関する研究も重点的なテーマとして、園全体で取り組みを進めます

■達成目標

より効果的な展示方法を検討し、展示効果を向上させる

■アクションプラン評価指標

展示の効果についての検証の実績

■評価理由

展示効果についての研究活動はあまりできていない

■評価理由の詳細（アクションプラン策定以降の取組実績）

【現状分析】

・動物園自身が行う研究活動としては、動物の飼育管理に関することのみならず、動物の展示に関することも重要なテーマであり、効果的な展示を開発していく必要がある。

【評価理由の詳細】

・新たな展示の開発については、新しい獣舎の設計の検討に当たって、波や水流を発生させたプールでのペンギン・アシカの展示、家畜のゾーンに人が入るようなふれあい展示など、これまで当園で取り組んでこなかった展示を盛り込むこととしている。

・一方で、展示開発に関する対外的な研究発表等は行えておらず、展示効果の検証の取組みも進んでおらず、今後の課題である。

■今後の取組方針

【総括】

新獣舎においては、効果的な展示となるよう設計の段階から展示効果の高い企画を盛り込んでいく。既存の獣舎についても展示の改善に取り組んでいく。また、展示効果の検証については、専門家の意見も聴取しつつ、検討を進める。

【計画内容】 ①現在の計画を継承し、取り組みを継続する

【達成目標】 ①現在の目標を継承し、取り組みを継続する

《アクションプラン項目》

(テーマ)

飼育技術力の向上

[飼育技術力の向上]

No.52、 53、 54、 59

天王寺動物園基本計画アクションプランシート

No	評価	担当	
52	○	管理担当	
		飼育担当	○

■計画内容

動物飼育管理を担当する職員（飼育員、獣医）が継続的に学ぶ機会を確保します

■達成目標

研究会等への参加件数を20%増加

■アクションプラン評価指標

国内外研究会・研修への参加実績

■評価理由

国内外研究会の参加件数はH27の9件からH30には13件まで増加しており、様々な学びの機会も増加した

■評価理由の詳細（アクションプラン策定以降の取組実績）

【現状分析】

- ・動物園においては動物の飼育管理を適切に行うことが決定的に重要であり、技術力を維持向上させていくことが必要。
- ・動物園の業界ではJAZA等において様々な研究会・研修会があるが、現場職員の参加はなかなか進んでいなかった。
- ・当園ではR1年9月以降、動物に関する事故が相次いで発生した。これを受けて、当園としての技術研修の強化・体系化を進めることとされた。

【評価理由の詳細】

- ・研究会の参加はH27年度は9件であったところ、H30年度は13件に拡大している。H30年度に参加した研究会等々は以下のとおり、
- ・全国動物園技術者研究会、近畿ブロック動物園技術者研究会、近畿ブロック臨床研究会、近畿ブロック飼育係研修会、大型動物麻酔研究会、ゾウ会議、ペンギン会議、コアラ会議、両生爬虫類会議、ホッキョクグマ会議、個体群管理講習会、ZIMS研修会、日本野生動物医学学会大会
- ・他園への技術研修派遣については、H28に3件（上野、日本平、埼玉こども）、H29に1件（多摩動物公園（ツルコウノトリ））、H30に1件（兵庫県立コウノトリの郷公園（ツルコウノトリ））。海外への研修派遣については、H28に3名（台北動物園）、H29に3名（シンガポール動物園）を派遣した。
- ・ハズバンダリートレーニングについては当園で開校した応用行動分析学入門講座にH28に4名（獣医1名飼育員3名）、H29に4名（獣医1名飼育員3名）が参加した。
- ・国際会議への出席については、R1に京都で開催された国際エンリッチメント会議に6名が参加。うち1名は英語で発表も行った。
- ・このほか、JAZA主催により初開催となった栄養シンポジウム（H30）には9名が参加した。
- ・R1.9以降に頻発した事故を踏まえて、R2.1には外部講師による安全研修を実施、またR3年度の実施に向けて、体系的な内部研修ができるよう準備を進めているところ。

■今後の取組方針

【総括】

園としての技術研修を体系的に実施していくとともに、引き続き、積極的に国内外の研究会・研修へ参加していく

【計画内容】①現在の計画を継承し、取り組みを継続する

【達成目標】②下記のとおり、内容を一部修正のうえ、取り組みを継続する

研修の体系化を進めるとともに、研究会等への参加を一定レベルに維持する

天王寺動物園基本計画アクションプランシート

No	評価	担当	
53	×	管理担当	
		飼育担当	○

■計画内容

日々の飼育管理の中で得られた技術知見の蓄積を図るとともに、職員間での技術伝承を進めます

■達成目標

勉強会・報告会を定例化し、飼育技術を維持・向上させる

■アクションプラン評価指標

飼育技術に関する所内勉強会、報告会等の実施実績、技術的知見の文書化の実績

■評価理由

出張報告会等については強化されたが、事故が頻発し、技術的な知見の扱いや伝承の課題が浮き彫りになった。

■評価理由の詳細（アクションプラン策定以降の取組実績）

【現状分析】

・当園の飼育員の年齢構成は高年齢に偏っており（最年少が30代後半）であり、将来的には同時期に大量の退職者が出るのが予測される。このため、蓄積してきた技術知見をいかに伝承していくかは大きな課題。
 ・R1.9月以降に続けて発生した動物の死亡事故や逸走事故を受けて、安全管理に関する情報が飼育員の間できちんと引き継がれてこなかったなどの課題が浮き彫りになった。飼育現場では、主に口伝とOJTによる技術伝承がなされてきて、ゾウ以外の種についてはマニュアルなどが策定されてこなかった。

【評価理由の詳細】

・飼育の技能統括主任・部門監理主任と獣医の毎月の定例ミーティング、飼育各班と獣医との定例ミーティングを毎月行い情報共有を図っている。

・技術的な勉強会としては、出張報告会や所内勉強会を実施している。H28年度は出張報告会1回、H30年度は、出張報告会3回、応用動物行動学の所内勉強会1回を開催した。また、R1年度は1月現在で所内勉強会を3回、出張報告会を2回、外部講師を招聘した勉強会2回（動物園のデザイン、安全管理）を実施した。

・R1.9月以降に頻発した事故を踏まえて、R1.12に飼育管理マニュアルの初版を策定した。今後は適宜にマニュアル自体の見直しや拡充を図っていく予定。

■今後の取組方針

【総括】

引き続き、取組みを実施し技術知見の共有を図る。マニュアルについては適宜に見直しを行い、実効あるものに発展させていく。

【計画内容】①現在の計画を継承し、取組みを継続する

【達成目標】②下記のとおり、内容を一部修正のうえ、取組みを継続する

勉強会・報告会を定例化するとともに、必要に応じてマニュアル等に知見を盛り込んでいく

天王寺動物園基本計画アクションプランシート

No	評価	担当	
54	○	管理担当	
		飼育担当	○

■計画内容

最新の技術情報を収集、保管、共有し、日常の業務に活用できる体制を構築します

■達成目標

専門情報の収集強化・一元管理

■アクションプラン評価指標

専門情報の収集と一元管理の進捗

■評価理由

庁内パソコンの共有フォルダ内に動物専門情報のフォルダを作成し、収集したデータを蓄積

■評価理由の詳細（アクションプラン策定以降の取組実績）

【現状分析】

・論文等の技術的な知見が整理されておらず、飼育員等がなかなか必要な知見にアクセスできなかった。このため、技術情報の整理を進めてきた。

【評価理由の詳細】

・H29年に、庁内パソコンの共有フォルダ内に動物専門情報のフォルダを作成し、飼育担当者が閲覧できるようにした。

・その後データの充実を図っており、R1年 1 0 月現在で、フォルダ内に集約している文献数は 2 1 0 件、うち英語の文献が 3 0 件である。

■今後の取組方針

【総括】

引き続き、データの蓄積を進め、専門情報の共有化を図る。

【計画内容】 ①現在の計画を継承し、取り組みを継続する

【達成目標】 ①現在の目標を継承し、取り組みを継続する

天王寺動物園基本計画アクションプランシート

No	評価	担当	
59	○	管理担当	
		飼育担当	○

■計画内容

いくつかの動物においては、人工繁殖技術の適用にも取り組みます

■達成目標

繁殖技術向上を図り、自然交配が困難な希少種の人工繁殖を推進

■アクションプラン評価指標

繁殖技術の向上に関する取組実績

■評価理由

H29から繁殖に取り組む優先種10種を選定し、人工繁殖技術の収集を行っている。

■評価理由の詳細（アクションプラン策定以降の取組実績）

【現状分析】

- ・動物園にとって希少種の繁殖は最重要課題であり、自然繁殖がうまくいかない場合には人工繁殖にも取り組んでいくことが必要。
- ・一方、家畜とは異なり、野生動物の人工繁殖技術は発展途上にあり、研究開発要素の大きい分野となっている。

【評価理由の詳細】

- ・H29年度に繁殖に取り組む優先種を10種（シシオザル、マレーグマ、ホッキョクグマ、レッサーパンダ、ジャガー、カリフォルニアアシカ、クロサイ、カバ、フンボルトペンギン、ナベヅル）選定し、人工繁殖に係る技術情報の収集を進めている。野生動物保全繁殖研究会にも職員が参加し情報収集を行っている。
- ・ツル・コウノトリ類については、現在は自然繁殖に取り組んでいるが、それがうまくいかない場合には将来的に人工繁殖を試みる可能性がある。このため、H29、30に他園に飼育担当者を派遣し、人工繁殖に関する情報収集を行った。
- ・また、現在ハズバンダリートレーニングにも園をあげて取り組んでいるが、採精等の人工繁殖への応用も視野に入れている。

■今後の取組方針

【総括】

引き続き人工繁殖に係る情報収集に努めるとともに、必要に応じて実践に取り組む。

【計画内容】 ①現在の計画を継承し、取り組みを継続する

【達成目標】 ①現在の目標を継承し、取り組みを継続する

《アクションプラン項目》

(テーマ)

イベントの実施

[各種イベントの企画実施]

No.8、9、11

天王寺動物園基本計画アクションプランシート

No	評価	担当	
8	○	管理担当	○
		飼育担当	

■ 計画内容

季節の大型イベントを企画し、その実施を定例化していきます

■ 達成目標

ナイトZOOを柱とし、季節に対応した期間イベントを定例化

■ アクションプラン評価指標

定例化したイベントの開催実績

■ 評価理由

H27年以降にナイトZOOを定例化させるとともに、H28年以降にドリームデイ・アット・ザ・ズーを定例化している。

■ 評価理由の詳細（アクションプラン策定以降の取組実績）

【現状分析】

①ナイトZOO、②ドリームデイ・アット・ザ・ズーといった大型イベントを定例開催している。

【評価理由の詳細】

①ナイトZOO

・H27年度より、毎年春・夏・秋の3回に分けて年間20日間程度開催しており、期間内は営業時間を通常の17時より延長（夏は21時、春・秋は20時）のうえ夜間営業を行っている。

※動物にもスタッフ（民間事業者含む）にも負担がかかるため、日数を絞って開催している。

・開催時期を夏季（7～8月）、秋季（10月）、春季（3月中下旬）として、様々な日程パターンを試している。H29年度は7月下旬から8月中旬までの土日とお盆時期に計10日間開催したが、H30年度は夏季の開催日を6日間に減らす一方で、秋季の開催日を4日間から9日間に増やし、ムーンナイトズーと銘打って開催した。

・ナイトZOOにかかる年間の入園者数は、H29年度は計75,425人、H30年度は計80,576人である。

②ドリームデイ・アット・ザ・ズー

・H29年度より開催しており、これまでH30年3月、H31年3月の月曜日（閉園日）に開催した。

・障害をお持ちの方々を閉園日にご招待して、ゆっくり動物園を楽しんでいただくことを目的とする企画で、障害者とその介助者等を組数限定で事前申込みにより実施するもの。また、地元社会福祉協議会等と連携して、ボランティアを確保することで安心して動物園を楽しんでいただけるようにしている。

・参加実績は、H29年度は951人、H30年度は2,394人であり、ボランティアは各年度とも50人弱の方々に協力いただいた。

今年度についても、3月23日（月）に実施の予定（定員3,500名）

■ 今後の取組方針

【総括】

①ナイトZOO、②ドリームデイ・アット・ザ・ズーの開催は好評を得ており今後とも継続していくが、お客様に提供するサービスコンテンツについては効果検証のうえ工夫していく必要があると考えており、より魅力的なイベントとなるよう取り組んでいく。

【計画内容】 ①現在の計画を継承し、取り組みを継続する

【達成目標】 ②下記のとおり、内容を一部修正のうえ、取り組みを継続する

イベントの一層の充実のため、企画内容について引き続き検討していく。

ナイトズー開催実績一覧

開催時期		H27	H28	H29	H30	R1(夏・秋のみ)
夏(8月)	開催数	9	10	10	6	7
	入園者数	93,505	85,023	60,156	39,609	28,578
秋(10月)	開催数	3	2	3	9	5
	入園者数	11,403	21,664	2,180	32,193	12,425
春(3月)	開催数	3	5	4	5	
	入園者数	17,898	15,037	13,089	8,774	
計	開催数	15	17	17	20	12
	入園者数	122,806	121,724	75,425	80,576	41,003

※開催数については、台風等による臨時閉園日を除く（H29：1回、R1：2回）

入園者数については、16時以降の入園者数の集計結果

天王寺動物園基本計画アクションプランシート

No	評価	担当	
9	○	管理担当	○
		飼育担当	○

■計画内容

ミニイベントの企画開発を行い、実施します

■達成目標

環境保護や生物多様性を意識したイベントの企画・実施

■アクションプラン評価指標

動物イベントの企画・実施件数の実績

■評価理由

環境保護や生物多様性を意識した企画展等のイベント実施件数が増加している。

■評価理由の詳細（アクションプラン策定以降の取組実績）

【現状分析】

・イベントの種類や回数は増加傾向にある。

【評価理由の詳細】

・大型イベント以外にも、中小の各種イベントを多数企画・実施しており、年間約80件程度のイベントを行っているが、そのうち環境保護や生物多様性等、動物園として取組み強化を意識した企画展等のイベントの実施件数は以下のとおりである。

H28年度 実施回数（10回）

「生物多様性と絶滅危惧種を勉強するツアー」、「企画展：絶滅の危機にある動物たち・外来生物脅威」
「世界キリンの日イベント」、「どうぶつ発見シートで天王寺動物園を巡ろう」など

H29年度 実施回数（12回）

「セミナー：コウノトリ野生復帰の現状と展望」、「企画展：いきものなにも？つなげよう！みんなのいのち」
「1杯のコーヒーから始める生物多様性」、「京阪神動物園めぐり：わたしたちとどうぶつスタンプラリー」など

H30実施回数（22回）

「公開講座：両性・爬虫類の生態と保全」、「世界動物の日イベント」、「世界野生生物の日イベント」
「Zooと下水道」、「パネル展：持続可能な開発目標SDGs（エスディーゼーズ）を学ぼう！」など

■今後の取組方針

【総括】

中小の様々なイベントを実施してきたが、ターゲットを明確化したうえで、引き続き効果的にイベントを実施していく必要がある。

【計画内容】 ①現在の計画を継承し、取り組みを継続する

【達成目標】 ②下記のとおり、内容を一部修正のうえ、取り組みを継続する

企画内容を精査するなどして、より効果的なイベントの実施につなげる。

動物関連イベント一覧表

H28実施回数： 計10回	1	「世界キリンの日」イベント（28.6.21）
	2	大遊協プレゼンツ！エコプロジェクト（28.7.2-8.28）
	3	どうぶつ発見シートで天王寺動物園を巡ろう（28.9.18-12.4）
	4	生物多様性と絶滅危惧種を勉強するツアー（28.10.30）
	5	どうぶつとわたしたち～生物多様性ってなんだろう～（29.1.14-3.31）
	6	想いでつなごう！おりがみアクション（29.2.12）
	7	Hey!Polar Bear～ごみを減らしてホッキョクグマを守ろう～（29.1.28-2.26）
	8	世界野生生物の日イベント（29.3.3）
	9	希少動物と一緒に守ろうプロジェクト（29.3.16-3.29）
	10	企画展「絶滅の危機にある動物たち・外来生物の脅威」関連イベント（29.3.18-4.9） WS「チリメンモンスターを探せ！」（29.3.18）
H29実施回数： 計12回	1	（再掲）企画展「絶滅の危機にある動物たち・外来生物の脅威」関連イベント（29.3.18-4.9） WS「チリメンモンスターを探せ！」（29.4.8-9）
	2	国際生物多様性の日イベント「1杯のコーヒーから始める生物多様性」（29.5.21）
	3	大遊協プレゼンツ！エコプロジェクト（29.7.1-8.20）
	4	あべの・天王寺サマーキャンパス「絶滅危惧種を調べようwith「スマイルノート」」（29.8.19-20）
	5	京阪神動物園めぐり「わたしたちとどうぶつスタンプラリー」（29.8.1-9.24）
	6	生物多様性と絶滅危惧動物を勉強するツアー（29.10.29）
	7	コウノトリ保全セミナー「コウノトリ野生復帰の現状と展望」（H30.2.4）
	8	世界野生生物の日イベント講演「カラスの言い分」（30.3.3）
	9	ストップ地球温暖化！二酸化炭素を減らして動物たちを守ろう（30.3.10-11）
	10	いきものなにも～どうぶつとやさいとわたしたち～（30.3.23）
	11	企画展「いきものなにも？つなげよう！みんなのいのち」関連イベント（30.3.17-4.8） WS「チリメンモンスターを探せ！」（30.3.24）
	12	企画展「いきものなにも？つなげよう！みんなのいのち」関連イベント（30.3.17-4.8） パネルディスカッション「わたしたちの暮らしと生物多様性～生物多様性ってけっこう身近～」（30.3.31）
H30実施回数： 計22回	1	（再掲）企画展「いきものなにも？つなげよう！みんなのいのち」関連イベント（30.3.17-4.8） WS「ベリット、ベリット!!としてみる？～鳥の落しものを調べて何を食べているか調べてみよう！～」（30.4.7）
	2	生物多様性イベント「クロサイとキリマンジャロ山とわたしたち」（30.4.7-8）
	3	国際生物多様性の日イベント（30.5.22）
	4	動物たちのために私たちができることを考えよう（30.5.26）
	5	公開講座「両生・爬虫類の生態と保全」（30.6.27）
	6	生物多様性イベント「森の環境問題クイズに挑戦＆アカペラコンサート」（30.9.16）
	7	世界動物の日イベント（30.10.4）
	8	「第三回 生物多様性と絶滅危惧種を勉強するツアー」（30.10.14）
	9	生物多様性イベント「ティンガティンガアートでクロサイとキリマンジャロ山を描こう」（30.11.24）
	10	京阪神動物園めぐり「わたしたちとどうぶつスタンプラリー」（31.1.10-2.28）
	11	世界野生生物の日イベント（31.3.3）
	12	サイエンスカフェ「マークに注目！自然にやさしい『おかいもの』」（31.3.9-10）
	13	ストップ地球温暖化！二酸化炭素を減らして動物たちを守ろう（30.3.9-10）
	14	生物多様性イベント「ZOOと下水道」（30.3.16）
	15	企画展「いきものなにも？みんなで考える生物多様性」関連イベント（31.3.19-4.7） 生き物すごいぜ！市立小学校での生き物調査発表（31.3.21）
	16	トークカフェ「生物多様性について考えよう」（30.3.21）
	17	ドリームデイ関連イベント ホネカワタッチコーナー（31.3.25）
	18	企画展「いきものなにも？みんなで考える生物多様性」関連イベント（31.3.19-4.7） WS「チリメンモンスターを探せ！」（H31.3.30）
	19	お絵描きイベント＆バードフレンドリー®認証コーヒーの試飲会（30.3.23）
	20	子ども出張森林教室 ～クイズに答えて大阪にすむ動物の足跡を押そう～（30.3.24）
	21	ティンガティンガ・アートでクロサイとキリマンジャロ山を描こう（30.3.30-31）
	22	パネル展「持続可能な開発目標SDGs(エスディー・ジーズ)を学ぼう！」（30.3.19-4.7）

天王寺動物園基本計画アクションプランシート

No	評価	担当	
11	△	管理担当	○
		飼育担当	

■ 計画内容

歳時記と連動した年間イベント計画を策定します

■ 達成目標

数年先の歳時記と連動させたイベント企画を実施

■ アクションプラン評価指標

年間イベント計画の事前策定と効果的な実施

■ 評価理由

毎年10月までに、次年度年間イベント計画を策定することを定例化し、それに基づきイベントを実施している。
歳時記と連動させたイベント企画にまでは至っていない。

■ 評価理由の詳細（アクションプラン策定以降の取組実績）

【現状分析】

・予算要求と合わせた年間イベント計画の事前策定により、季節に応じたイベント企画に必要な予算を確保したうえでイベントが実施できている。

【評価理由の詳細】

・H27年以前は年度当初に年間イベントを計画していた関係で、イベント実施に必要な予算確保が十分に行えないなどの弊害が生じていたが、以降は次年度予算要求時期に合わせて年間イベント計画を策定することで、必要な予算を確保している。
・ただし、歳時記と連動させたイベント企画にまでは至っていない。

■ 今後の取組方針

【総括】

今後は、例えば大阪万博（2025年）など、数年先のビッグイベント開催を控え、開催時期に合わせたイベントはもちろんのこと、プレイベント的なタイアップが図れないかなどを意識して年間イベント計画策定に取り組んでいく。

【計画内容】 ①現在の計画を継承し、取り組みを継続する

【達成目標】 ①現在の目標を継承し、取り組みを継続する

2019 年度(令和元年度)年間イベントスケジュール	
期間	内容
4 月 19 日(金)	飼育の日イベント
5 月 3 日(金・祝)～5 日(日・祝)	春の動物ガイド
5 月 8 日(水)	ヒツジの毛刈り
6 月 2 日(日)	カバの歯磨きイベント
6 月 21 日(金)	世界キリンの日イベント
7 月 21 日(日)	ホッキョクグマに氷柱プレゼント
7 月 26 日(金)	世界コアラの日イベント
7 月 25 日(木)・26 日(金)	サマースクール(事前募集制)
8 月 6 日(火)～18 日(日)	戦時中の動物園展
8 月 3 日(土)・4 日(日)・ 10 日(土)～15 日(木)	ナイトZOO
9 月 16 日(月・祝)	長寿動物にプレゼント
9 月 22 日(日)	世界サイの日イベント
9 月 23 日(月・祝)	動物感謝祭
10 月 4 日(金)	世界動物の日イベント
10 月 12 日(土)・13 日(日)・19 日(土)・ 20 日(日)・26 日(土)・27 日(日)	ナイトZOO
11 月 3 日(日)・4 日(月・振替休)	「獣医さん」「獣医師」の日イベント
12 月 8 日(日)	ホッキョクグマ誕生日イベント
12 月 22 日(日)	冬至の日にかぼちゃプレゼント
12 月 21 日(土)・22 日(日)	クリスマスイベント
1 月 1 日(水・祝)～3 日(金)	お正月イベント&ハルカスお誕生日イベント
1 月 1 日(水・祝)～13(月・祝)	干支の動物展
1 月 7 日(火)	福娘より福笹プレゼント
2 月 2 日(日)	節分イベント
2 月 11 日(火・祝)	バレンタインデーイベント
2 月 27 日(木)	国際ホッキョクグマの日
3 月 1 日(日)	世界野生生物の日
3 月 20 日(金・祝)～4 月 5 日(日)	生物多様性展
3 月 20 日(金・祝)・21 日(土)・22 日 (日)・28 日(土)・29 日(日)	ナイト ZOO
6 月・3 月頃開催予定 (応援団の方限定イベント)	応援団バックヤードツアー